

日時：令和2年2月17日（月）午後2時～4時

出席者：民生委員・児童委員協議会、小平警察署、多摩小平保健所、小平市社会福祉協議会、障がい者支援課、高齢者支援課、生活支援課、小平ケアマネ連絡会、障がい者支援施設、小平市地域包括支援センター

## 1 テーマ

誰もが悩む複合的な課題を抱える家族への対応支援のために～連携体制のあり方について考える～

## 2 背景

近年、支援が必要であろう高齢者の方だけでなく、ひきこもり状態や精神疾患等を抱える子との関係、金銭的な問題や公的な支援の介入を拒否するなど、世帯で複合的な課題を抱えている家族の事例が増えている傾向にある。このような事例では、高齢や障がいなど制度の枠組みだけでは対応がしにくく、実際に対応に苦慮してしまうという声が各地域から挙げられた。そこで、典型的な事例についての意見交換を通し、関係機関との取り組みや連携体制のあり方があれば良いのか、地域でどのような対応策や取り組みが必要か具体的な提案を出した。

## 3 主な意見

### （1）課題と感じていること・困っていること

- ・ 関係機関との連携・情報共有がうまくいかない
- ・ 既存の制度以外での対応の困難さ・長期化する
- ・ 地域社会で孤立している

### （2）課題を解決するために必要と思う取り組み

- ・ 他の機関のことを知り、お互いの役割の理解
- ・ 関係者で定期的に話し合う機会を設け、情報共有を行う場の開催
- ・ 家族会や地域の居場所などインフォーマルな資源を強化し、地域で孤立させないこと
- ・ 弁護士、医師など新たに連携できる専門職を発掘し、相談や連携をしやすい体制づくり

## 4 まとめ・今後必要な取り組み

### （1）関係機関との連携体制の構築

- ・ どのような相談をどの機関で対応すべきか、他の機関についての理解
- ・ 複数機関における効率的な情報共有方法の確立
- ・ 複合的な課題に対する、各機関が同じ目標をもった対応体制づくり

### （2）他の機関・専門機関へ相談できる体制づくり

- ・ テーマ型の地域ケア会議の実施
- ・ 弁護士、医師など連携できる専門職とのネットワークづくり

### （3）積極的な情報共有

- ・ 障がい、高齢といった分野の垣根を超えた情報共有、事例検討
- ・ 行政をはじめ、福祉部門以外からの必要に応じた情報取得

### （4）繋がり続けるアプローチ

- ・ 誰かが繋がり続けられないといけないが、支援者側も孤立しない支援体制づくり
- ・ 家族会や地域の居場所など、インフォーマルな社会資源を充実させ、地域で孤立させないこと
- ・ 地域住民に対する周知・普及啓発